

# 資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『地域社会のための公共サービス  
—官民連携の評価と新たな展開の  
可能性』  
野村宗訓、柏木恵編著  
関西学院大学出版会発行  
2024年8月／2,640円（税込）  
所蔵箇所：信濃町

本書は、地域社会の維持に必要な公共サービスである上下水道、電力、鉄道、空港などを対象に、主にイギリスの事例と比較を行い、民営化と規制緩和の影響や官民連携を考察したものである。

日本の鉄道は、2000年の規制緩和以降2023年4月までに46路線、総延長1,100km超の路線が廃止された。地方では、人口減少や少子化の影響による利用者の減少や運転士不足といった複合的な要因からサービス水準が低下し、ますます利用離れを招く負のスパイラルに陥っており、地域鉄道事業者の大半が赤字である。2007年の活性化再生法策定以降、各地で様々な相互連携が進められているが、地域にあった交通サービスの再構築が必要である。イギリスでは鉄道改革で上下分離による競争を促進したが、施設に対する投資不足、フランチャイズの経営難などが発生し、鉄道事業の運営を政府所有の企業GBRに移行させる方針が示された。GBRが鉄道施設を保有し、運賃やダイヤなどを決定するが、運行業務は民間事業者に委託することになり、日本と同様に地域の主体的なかかわりが重要性を帯びている。（古森）

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『豊橋鉄道100年史』

豊橋鉄道社史編纂委員会編集・制作  
豊橋鉄道発行  
2024年3月  
所蔵箇所：上野（一般公開中）

本書は、1924年に豊橋電気軌道として産声をあげた豊橋鉄道が100周年記念事業の一環としてまとめた年史である。かつての年史に『豊橋鉄道50年史』（1974年、資料室所蔵）があるが、本書には創業当初からの業績が簡潔に記されている。

本文には、戦中戦後の苦難を乗り越えた姿や、鉄道・バス事業および宅地開発や観光事業などによる東三河地域経済への貢献、少子高齢化や人口減少の課題に周辺地域と連携して対応し、交通を通じて持続可能な未来を目指す取り組みが描かれている。座談会において社員たちが100年先の豊鉄グループを生き生きと語る様子は象徴的だ。また、「資料編」では本文で記せなかった内容を年表で補足し、『50年史』にはない創業当時からの財務関係資料や車両の変遷も掲載している。

最後に、このコーナーをご覧になった同社から本書を寄贈していただいたことに深い感謝の念をお伝えしたい。また、当資料室が地域別に並べた他の交通企業史とともにご覧いただくことで、本書の編集後記にあるように「地域交通史の考察がますます深まる」ならば幸いである。（田邊）

## 資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

